

名取の御湯

なとりのみゆ・あきうおんせん



秋保温泉は、約千年前に書かれた『大和物語』にも「名取の御湯」として記されています。その名は、磊々峡をはじめとする名取川沿いの風光明媚な景観とともに、京の都でも知られていたものと思われま

す。時代は大きく変わりましたが、疲れを癒す湯と、四季折々の自然風景は、変わることはない秋保温泉の魅力であり、自慢でもあります。

歴史深い温泉でゆっくりと体を温め、川の音や鳥のさえずりを感じながら、いにしえより伝わる景勝地をめぐる。

さあ、そんな秋保温泉へ、てくてく出かけてみませんか。

昔は、この地区の子ども達にとって磊々峡は格好の遊び場でした。学校には未だプールが無い時代で、夏休みとなると毎日のように名取川に遊泳に魚捕りに明け暮れ、その舞台は上流の「のぞき橋」から下流は「ホテル華乃湯」付近まで、おおよそ800mに及びます。

当時「のぞき橋」の下は3m位の滝となり、両端渦を巻き深い淵となっていて、昔は「のぞきぶち」といわれておりました。また、「八間巖」の急流、断崖をよじ登ったり、「猪飛岩」や、「お不動さん」(塩滝不動尊付近)の長い深淵など多くの難所があり、これらを泳ぎ切ることが一丁前の泳者として認め

てもらえるんだ、と、心ひそかに懸命に泳ぎに励み、初めて泳ぎ切ったときは、英雄の仲間入りをした気分になっておりました。

もう数十年の歳月が経ているにもかかわらず、当時の話になりますと、その光景が鮮明に蘇ってくるのは私ばかりではないようです。

磊々峡の近くにお住いの 庄子敏明さん

秋保 いってみっぺ

てくてく磊々峡

いってみっぺ 秋保 てくてく磊々峡

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

磊々峡はもう歩きましたか？

てくてく歩けば見どころいっぱい！

歴史あるもの、面白いもの、みんな秋保の文化です！

訪れてみたい秋保

二口街道ツアー 62

掲載されている情報は、平成27年3月現在のものです。

磊々峡

らいらいきょう



見下せば藍をたたうる深き淵
鎮魂台を風掠め行く
真二つに天斧巖をつんざきぬ
三万年前のあけぼの
土井 晩翠

磊々峡は、名取川中流に位置し、秋保温泉入口の「視橋」を中心とした東西約2kmの峡谷です。その川幅は、場所によってはわずか2メートル足らずと、名取川の最も狭まった部分にあたります。

かつては「視淵(のぞきぶち)」と呼ばれ、「名取の御湯」を訪れた旅人がつい覗かずにはられない場所、必見の場所でした。

秋保・里センター北側の遊歩道「もみじのこみち」からは、壮大な巖の連続、急流に洗われる奇岩、怪石を間近に眺めることができます。その姿に、現代の旅人たちもまた、思わず目を奪われることでしょう。

磊々峡は、秋保温泉観光のハイライト。ぜひゆっくり歩いて、満喫してください。